

令和4年度学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

書面審査	学校関係者	5名
	生徒・保護者	4名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		
1	<p>【現状】授業を理解し主体的に参加している生徒が増加し、進路実現に向けて目的意識を持って学校生活を送っている。</p> <p>【課題】ICT活用、AL等により学習活動の充実を図ったが、思考判断表現力と知識・技能の定着に結び付く意味理解学習の実践はまだ十分ではない。また、各種検定の受験者は増加したが、各自の目標設定が弱く課題である。</p> <p>新学習指導要領観点別評価開始に合わせさらに授業改善を行い、生徒一人ひとりの基礎学力を向上させ多様な進路実現を果たす。</p>	<p>○知識・技能の定着を重視した能動的な授業を実践し、生徒の主体的・対話的な学習態度を育成する。</p> <p>○多様な進路希望の実現に向けて、一人ひとりに適した進路指導を行い、資格取得に向け目標を設定させ計画的な学習を支援する。</p>	<p>①基礎学力向上に向けた授業実践と授業研究を行い、教員の指導力を向上させる。また、学習サポーターの有効活用で生徒の基礎力向上支援に繋げる。</p> <p>②朝学習の効果的な活用、夏季・冬季補習の講座へ、参加者を増やし補習を充実する。</p> <p>③三年間を見通し、早い時期から進路指導を行い、進路実力増進講習の受講者数を増やす。また、多様な進路に向け、1年間で資格テスト受験率一人1つ以上を目指す。</p>	<p>①「授業が理解できているか」という生徒の割合90%以上</p> <p>②補習へ参加する生徒の人数を昨年度よりも増加させる。また、欠点を取る生徒は減少したか。</p> <p>③生徒の個々の受験の割合30%以上とその他の特技・興味のある補習や講習会への参加割合20%以上。</p>	<p>①「授業に真剣に取り組んだ」生徒の割合96.1%。「わかりやすい授業」は数学が32.7%と最も多く、英語が22.8%。苦手意識の強い科目が理解できている。ICT活用にClassi導入を決定、研究中。</p> <p>②補習・模擬試験は定期的実施する方向が定着してきている。特に2年生では補習の参加人数や検定受験者が増加した。また、欠点を取る生徒は減少した。</p> <p>③3年生では進路指導における分野別指導を計6回実施した。生徒の個々の受験の割合29.1%。これから受験する予定である生徒は16.5%。漢字検定は合格者が2級2名、準2級が6名、3級が28名で、取組が定着している。</p>	A	<p>①さらにICTを活用して視覚的にわかりやすい教材を作成、実習科目では理解を助ける実験・観察を工夫していく。また、AL授業等、生徒が自ら取組めるよう工夫する。</p> <p>②生徒が希望する科目の補習は必要な時期に都度実施する。</p> <p>③漢字検定において、2級、準2級合格者を増やすのはもちろん、3級に合格できるレベルの生徒を増やせるよう普通の指導を一層徹底する。</p>	<p>・授業や指導について、いろいろ模索している所が伺える。</p> <p>・日々の努力の成果が数字として着実に現れている事は、大変素晴らしい。ぜひ今後も、年度ごとに変わる課題を捉え、それぞれをクリアできる方策を立て、取組んで欲しい。</p> <p>・「真剣に」「わかりやすい」等の本当の意味を教師と生徒が共有しているのか、再確認するとよい。</p> <p>・数学の習熟度別クラスの先生の教え方に差がある。→生徒の能力、理解度に合わせて、クラスごとに効果的な指導法を行っている。</p> <p>・取組の成果は上がっているが、結果のない生徒の底上げをどのようにしていくかが、課題だろう。</p> <p>・生徒にとっても支持されていることがよくわかり、有難い。</p>
2	<p>【現状】特別生徒指導件数は激減し、身だしなみ不良者、遅刻・欠席数、転退学者数は毎年減少傾向にある。</p> <p>【課題】生徒一人ひとりの資質を認め人権に配慮し、個に応じた指導と足並みを揃えた生徒指導を行い、転退学者の更なる減少につなげる。春日部特別支援学校宮代分校開校に伴い、本校生徒及び保護者に共生社会に向けたインクルーシブ教育への理解を深めていく。</p>	<p>○ポイントを明確にした生徒指導を実践する。</p> <p>○生徒・保護者への粘り強い丁寧な対応、カウンセリング等に関する教職員研修の充実で、転退学者を減少させる。</p> <p>○継続的なインクルーシブ教育で他者理解を深める。</p>	<p>①家庭と連携して生徒の生活改善を図り、規範意識を確立する。</p> <p>②授業、部活、行事、教育相談等を充実し、学校生活へ意識を向け、転退学者を無くす。</p> <p>③道徳教育推進モデル校指定事業として、講演会や分校と交流行事を行い、生徒の学びの場を増やし、思いやりや優しさを教える。</p>	<p>①生徒指導件数、遅刻欠席率を減少させる。</p> <p>②転退学者数を前年度より減少させる。</p> <p>③インクルーシブ教育講演会と分校との連携事業を、定期的実施する。</p>	<p>①生徒指導件数人数20件、36人と昨年度より増。遅刻者数1466回、前年度より増。(3/23現在)</p> <p>②学習行事はそれぞれ予定通り実施。1年部活加入率75%。教育相談を充実し、定例会議で教員同士の情報共有が図られた。転退学者数は22名(3/23現在)、昨年同時期より増加。</p> <p>③インクルーシブ教育講演会2回と道徳教育講演会6回外部指導者を招いて実施。分校との連携事業は、地域の方を指導者としてゲートボール交流会を4回、定期的実施し、テレビ取材を受け放送された。</p>	B	<p>①生徒の様子を学年などで共有し、事前に生徒への話しかけや巡回指導を行う。また、遅刻者へは遅刻カードの活用や指導の充実を図り、学校全体で取り組んでいく。</p> <p>②個の特性に応じたきめ細かな指導の中で、よりよい道を生徒・保護者と共に考えていく。</p> <p>③外部講師による心の教育は効果的である。更に機会を増やしていく。</p>	<p>・指導件数が増加するのは何故か、原因を追究する必要がある。</p> <p>・個別最適化という視点で改めて見直してみてもどうか。</p> <p>・生徒指導の日は、早退しよう、休もう、と考える生徒もいるため、抜き打ちで指導するなど対策してはどうか。</p> <p>・生徒から感じた温かさや優しさ、健やかな雰囲気、さらに今年度の研修を通して、あるいは分校の開校を通して、一層高まっていくことを期待する。</p> <p>・分校との交流会は、生徒会以外にも広く参加できる機会を増やしていくとよい。</p> <p>・分校の授業や実習に参加してみたい。</p>
3	<p>【現状】地域(宮代町、町教委、自治会、商工会)交流や異校種交流事業を行い、豊かな人間性と社会性を育成する機会を持った。70万人体験活動の様子を情報発信し、生徒の参加意欲を高めた。</p> <p>【課題】HPは機を逃さず更新、学校説明会や各種交流は地域を拡大して広報し、本校の教育活動を広く周知する。</p>	<p>○学校内外の教育資源、地域資源を活用した交流事業、また、春日部特別支援学校宮代分校との交流を率先して行う。</p> <p>○積極的な情報発信で、入学希望者数の増加につなげる。</p>	<p>①小中との交流事業や生徒の個々の得意分野を生かした活動を継続し、宮代高校を理解し信頼を得て、普及活動に支援の輪を広げる。</p> <p>②HPとメール配信システムの活用により、宮高の魅力や魅力を情報発信し、家庭・地域との連携を強化する。</p>	<p>①近隣小中学校等との連携による学習活動、地域住民との交流や地域貢献活動等、教員・生徒の係わり3件以上を目指す。</p> <p>②HPの充実を図り、本校の教育活動の魅力を発信、一日平均2,200アクセス数を目指す。また、保護者メールは効果的な情報を適宜発信する。</p>	<p>①近隣小学校2校へスポーツ交流指導に3部活が参加。中学校と運動部は合同練習を実施。文化部は地域企業主催のイベント参加や作品展示会等、地域住民と交流し、地域貢献活動が増えた。</p> <p>②HPは毎日更新、学校行事他、各部活においても多数UPし、交通アクセス数のページを大幅に修繕、本校の魅力を発信できた。一日平均4,000を超えるアクセス数の日もあり、約3,000以上が日常。保護者メールは必要な時に効果的な情報を適宜発信でき、事務室からの連絡も必須となった。</p>	A	<p>①地域交流は積極的に本校から依頼して計画していたが、まだコロナの影響で企画途中で中止になったものもあった。さらなる工夫改善の上、実施していく。</p> <p>②HPはどの分野も定期的に情報配信を行うために、担当者を決めるなど工夫をしていく。写真の共有や教職員への普及も継続的に取り組む。</p>	<p>・学校PRは素晴らしいと思う。</p> <p>・ホームページのトップページを学力向上とし、8項目を1ページずつ割り当て、学校全体の熱意ある取組としてPRするとよい。</p> <p>・部活によってホームページの更新回数に偏りがあるので、部員自身に広報活動をさせたから、中学生も増えるのではないかな。</p> <p>・保護者用メールは細かく記載されてわかりやすく、保護者も安心したと高評価である。</p> <p>・小中学生が憧れを持っているよう、また地域からの信頼が一層高まるよう、今後も継続的にさらに新たな事にも挑戦して取組んで欲しい。</p>

